

令和 5 年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 令和 5 年度東京都立富士高等学校・附属中学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 庶務・広報部主任＝事務局長、経営企画室長 計 2 名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長（中・高）、経営企画室長、教務情報部主任、進路学力部主任、生徒支援部主任、
高校学年主任代表、中学学年主任代表、庶務・広報部主任（事務局兼） 計 10 名
- (4) 協議委員の構成
PTA 会長、同窓会会長、近隣教育委員会統括指導主事、近隣自治会長、有識者〔大学教授等〕（3）、消
防署長 計 8 名

2 令和 5 年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第 1～3 回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第 1 回 令和 5 年 6 月 13 日（火） 内部委員 10 名、運営委員 6 名
授業視察、運営委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
令和 4 年度の学校経営計画達成状況と令和 5 年度の学校経営計画の説明、意見交換
 - 第 2 回 令和 5 年 11 月 10 日（金） 内部委員 10 名、運営委員 6 名
授業視察、本校の現状と課題（成果現状報告と課題・方策）
運営委員からの教育活動に対する意見、学校評価アンケート質問項目の内容検討、協議
 - 第 3 回 令和 6 年 2 月 16 日（金） 内部委員 10 名、運営委員 6 名
授業視察、本校の現状と課題（これまでの成果現状分析、次年度に向けての課題・方策）
学校評価アンケートの集計結果及び分析結果報告を見てご意見を紙面で提出してもらった。
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第 1 回 令和 5 年 11 月 10 日（金） 内部委員 4 名、評価委員 2 名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果について
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第 2 回 令和 6 年 2 月 16 日（金） 内部委員 4 名、評価委員 3 名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理 評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

○評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・全体としては、「学校生活」「授業」「習熟度」「学習指導」「特別活動」「探究活動」「理数教育」「グランドデザイン」「国際理解教育」への肯定的な回答の割合が高くなっている。
- ・令和 4 年度の傾向と同じようなものを示しているが、「生活指導」「国際理解教育」では学年による差が見られる。生活指導については肯定的な回答は中学生が高く、高校生が低くなっている。
- ・学校評価が丁寧に行われていて、自己評価も A に偏ることなく、しっかりと B、C という評価もされており、適切に評価していると感じた。
- ・SSH の活動が年々充実していくのを感じている。
- ・教職員の皆さんが具体的な目標を定め、その実現に向けて取り組むという営みは、大変意義があることと思う。引き続き、努力をしてほしい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価への反映）

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
 - ・質問項目の分析・改善へとつなげるためには、質問項目や内容を検討し修正が必要である。
 - ・生徒、保護者、教員の自由意見を述べる場所に入れてもよい。
 - ・運営委員との意見交換により、課題に対する具体的な対応策について助言を得ることができた。今年度はスーパーサイエンスハイスクール指定 3 年目として必要な見直し、理数教育のさらなる充実や進路指導にむけた学校運営について議論した。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
 - ・生徒による授業評価の見直し（通塾アンケートを組込む） ・学校評価アンケートの見直し
 - ① 評価項目と事実項目の分類
 - ② 自由意見欄を入れる

- ③ 学校評価アンケートの分析をどのように改善につなげるのかを検討する
- ④ 地域住民へのアンケートの実施において本校での取り組みをどのように知ってもらうかの検討
- ・校則の見直しについて、PTAや生徒との話し合いを踏まえて、生徒の主体性をもって行う
- ・自習室の改善
- ・生徒の進路実現に向けての教員の授業力の向上

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画への反映）

（1）学校運営

- ・学校ホームページにおいて、日々の生徒の活動を毎日のせて情報発信をしているので継続する。
- ・Cラーニングにおいて保護者との連絡や行事などの様子を情報発信し、情報の共有化を推進。
- ・SSHの取組を全教職員体制で行うための教員の意識向上。校内研修の実施。
- ・生徒指導について保護者との連携をはかる。三者の話し合いを深め、より良い校則へと改善する。
- ・授業力向上に向けた校内研修会を年3回実施する。

（2）学習指導

- ・自習室の改善を図る。環境整備の実施。
- ・今年度は3回実施した授業力向上研修を3次年度も維持・継続し教員の授業力向上を図る。また、授業評価アンケートを実施し、教科での分析をもとに学校全体で改善を図り教科主任会で共有する。
- ・課題研究の指導力向上を目指す富士未来学研修、富士未来学推進委員会を実施。次年度も維持・継続し教員の授業力向上を図る。

（3）特別活動

- ・本校の伝統である文武両道の校風を継承し、生徒の主体的な活動を支援する。
- ・グラウンドデザインに基づく探究発表会や富士三大行事（体育祭、文化祭、合唱祭）の運営を教員の実行委員会で検討し、生徒の実行委員会により企画・運営が生徒主体になるよう推進する。

（4）生活指導

- ・服装、ルールの違反者がいる場合はその場で指導をする。今後は生徒会・PTAとも連携しながら時代情勢を鑑みたルール整備と周知が課題。
- ・避難訓練の見直し。様々な災害を想定し計画的に行い、生徒の防災意識を高めるとともに、セーフティ教室を通して、薬物乱用防止、情報モラル教育など地域と連携した取組を維持・推進する。
- ・三大行事に向けて、実行委員及び執行部の活動を充実させる。
- ・校内研修（年3回）を充実させる。いじめに対しては、組織的に毅然とした対応が取れるように、いじめ防止基本方針の徹底をする。
- ・通級指導の充実を図る。担当教員だけでなく学校として取組む姿勢になるよう教員への周知を図る。

（5）進路指導

- ・中高一貫教育校として、難関大学合格を含めた進学実績を目指す。
- ・模試や模試分析を活用し、データに基づき客観的・実証的な分析を行い、生徒の学力把握、学力向上の推進、分析会など、校内の組織的な体制に改善・推進する。現状の分析会を維持できるよう取組む。
- ・自らの進路希望を高く維持できる意識づけをさせながら、自信をもたせる指導をする。ホームルームや学年集会の活用。学年と進路学力部で連携する。
- ・ホームページの充実を図る。

（6）健康・安全

- ・安全衛生委員会等、産業医との面談や研修、ライフ・ワーク・バランスをより推進して、教職員のメンタルヘルス体制を維持する。長時間労働の改善に向けて管理職からの声掛けや業務改善を行う。
- ・風通しの良い職場環境を目指す。

6 「学校が良くなった」と考える運営委員の割合

- ・先生方も生徒の皆さんも大変に忙しく過ごしているように思います。でも、皆さんが満足していると感じておられるなら、それも仕方ないのかもしれませんが。先生方はぜひメリハリをつけて、休まれる際には十分に体を休めていただきたいと思います。
- ・生徒は積極的に、教職員は真面目に取り組んでいて、とても好感がもてる。

（1）運営委員回答人数 8人

（2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う：50%（4名） 多少そう思う：25%（2名） どちらともいえない：12.5%（1名）

そう思わない：12.5%（1名）